



I.C.

自分たちが主体となり一からすべてを決定し、目標に向けて動くことの大変さを学びました。とても良い経験でした。



小野寺真優  
Onoera Mayu

プロの方への取材は緊張の連続でしたが、大学生活の中で一番成長できた講義でした。大変でしたが楽しかったです。



吉川菜月  
Kichikawa Natsuki

私は入学前からこの雑誌制作に興味を持っていました。プロの方や仲間との貴重な経験は忘れられない思い出です!



近田安美  
Konoda Ami

想像していた以上に大変でしたが、同じくらいやりがいも感じました。貴重な経験ができて楽しかったです。



竹下夏美  
Takeshita Natsumi

雑誌制作に興味のある方や、プロの方と関わる経験をした方はぜひ挑戦してみてください。やりがいは大きいです!



沼倉瑠乃  
Numakura Yukino

社会人とのやり取りや仲間とともに行う作業に責任の重さを感じました。自信に繋がる貴重な経験になりました。



横島愛乃  
Yokoshima Aino

字数制限のある中読者に伝えることの難しさ、チームで協力して話し合う大切さを学べる貴重な体験ができました。



伊藤 碧  
Ito Aoi

雑誌をつくり上げていく経験は他では体験できない貴重なものでした。参加できたことをとても誇らしく思います。



大場穂野香  
Oba Honoka

指定された文字数の中で読者に伝えるのに苦労しました。プロの方とともに制作することは貴重な体験になりました。



黒岩実夢  
Kuroiwa Miya

何も分からないところから始まり、大変なことばかりでした。ですが、やりがいのある充実した授業でした。



佐々木美々  
Susaki Mimi

取材などすべてが初めてで、緊張しましたが慣れた雑誌制作に携われて楽しかったです。貴重な経験ができました!



中島莉子  
Nakajima Riko

雑誌制作に携わりたく現代文化表現学科に入学しました。プロの方と仕事させていだき貴重な経験になりました。



針谷亜音  
Harigaya Anon

プロの方々と雑誌をつくり上げる中で責任感と達成感を味わえる貴重な経験ができ一生の財産になりました。



六川萌菜美  
Rokukawa Monami

伝えることの難しさを痛感し、力不足を感じたこともありましたが、つくり上げることの楽しさを実感できました。



内山 萌  
Uchiyama Moe

制限された文字数の中で思いや熟を届けることの大変さを痛感しました。貴重な体験を通して成長できた気がします。



春日小優季  
Kasuga Koyuki

伝えること、文章を書くことの難しさを実感しました。新しい経験をし、多くのことを学べる経験になりました。



鎌田琴羽  
Kamata Kotoha

この授業でしか体験できないことがたくさんあり貴重な経験になりました。忘れられない1年間です!



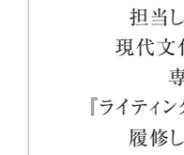
小嶋未緒里  
Kojima Miori

すべてが特別な経験でした。たくさん悩みながら準備した時間、取材や打ち合わせのときの緊張も思い出です。



佐藤のの花  
Sato Nunoka

高校生の頃からこの授業で雑誌制作することが夢でした。何もかもが新しく、すべてがよい経験になりました。



長沼和羽  
Naganuma Kazuha

高校生から夢だった雑誌制作に携わることができ、初めてのことがばかりで大変でしたが、貴重な経験になりました。



藤川結衣  
Fujikawa Yui

大変だと感じることも多かったですがプロの方たちと雑誌をつくるという貴重な経験ができてよかったです。



若月水奈  
Wakatsuki Mina

取材では、「相手の言葉を聞き出す質問をする」を特に気をつけました。怒涛でしたが楽しい授業でした。



岡 千尋  
Oka Chihiro

初めての経験で不安も多く最後までやり遂げられるか心配でしたが、仲間と助け合いつくり上げたことは思い出です。



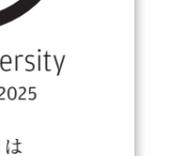
狩野有美  
Kariino Yumi

制作していく中で、計画的に物事を進めることの大切さを学びました。楽しんで読んでいただけると嬉しいです。



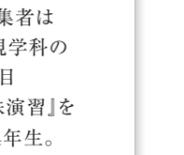
小林莉菜  
Kobayashi Rina

跡見を志望したきっかけの雑誌制作ができたことが嬉しいです。大変でしたが、モノづくりの楽しさを実感しました。



滝下咲理菜  
Takishita Sarina

文章で伝える難しさを改めて実感し、向き合うことでできた授業でした。広報部の仕事も貴重な経験になりました。



西村果南  
Nishimura Kanami

プロの方との共同作業を通じ、雑誌が出来上がる過程においての大変さややりがいを体感し貴重な経験になりました。



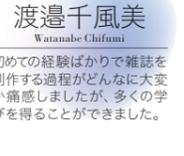
本田詩織  
Honda Shiori

取材や構成、入稿など貴重な体験をさせていただきました。締め切りが迫っていたことも、今では思い出です。



増坂智恵  
Masusaka Chie

多くの人の共同作業で責任感も緊張感も段違いますが、その分やりがいと達成感を得ることができました!



渡邊千風美  
Watanabe Chifumi

初めての経験ばかりで雑誌制作過程がどんなに大変か痛感しましたが、多くの学びを得ることができました。



尾島 涼  
Ojima Ryo

一問一答にしない取材を心がけ原稿では読者の心に響く言葉を紡ぐことから、言葉の可能性を実感しました。



川原笑里  
Kawahara Eri

人の思いを文章にすることの責任を実感しました。この経験を忘れずに、今後様々なことに挑戦していきたいです。



小嶋未緒里  
Kojima Miori

すべてが特別な経験でした。たくさん悩みながら準備した時間、取材や打ち合わせのときの緊張も思い出です。



佐藤のの花  
Sato Nunoka

高校生の頃からこの授業で雑誌制作することが夢でした。何もかもが新しく、すべてがよい経験になりました。



長沼和羽  
Naganuma Kazuha

高校生から夢だった雑誌制作に携わることができ、初めてのことがばかりで大変でしたが、貴重な経験になりました。



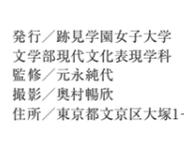
藤川結衣  
Fujikawa Yui

大変だと感じることも多かったですがプロの方たちと雑誌をつくるという貴重な経験ができてよかったです。



若月水奈  
Wakatsuki Mina

取材では、「相手の言葉を聞き出す質問をする」を特に気をつけました。怒涛でしたが楽しい授業でした。



渡邊千風美  
Watanabe Chifumi

初めての経験ばかりで雑誌制作過程がどんなに大変か痛感しましたが、多くの学びを得ることができました。



Atomi University  
volume 14 / 2025

# 世界と戦う美をサポートする 21人の仕事



21 professionals  
who support  
our athletes  
in their competition  
for beauty  
excellence

# fairy japan

『Visions』は  
現代文化表現学科の  
学生が編集しました。

『Visions』は  
現代文化表現学科の  
学生が編集しました。

発行/跡見学園女子大学  
文学部現代文化表現学科  
監修/元永純代  
撮影/奥村暢欣  
住所/東京都文京区大塚1-5-2

Visions 2025年1月・14巻1号  
通号14号

# I

## introduction

# 世界と戦う美しさ フェアリー ジャパン POLA に迫る



## 1 新体操について

新体操は20世紀初めにバレーや舞踏などから派生して誕生し、今はオリンピック正式種目に採用されている。試合は個人と団体の2種類があり、個人はロープ・フープ・ボール・クラブ・リボンの5種目を、団体は5人1チームで1つの手具、もしくはクラブとフープといった2つの手具を組み合わせで演技を行う。難易度の高さだけでなく、芸術性や完成度も採点基準になるため表現力や演技力、さらに美しさが必要とされるスポーツである。

## 2 フェアリー ジャパン POLAとは

フェアリー ジャパン POLAとは、新体操日本代表のことである。柔軟性や表現力、バランス力や体幹、手具操作の巧みな技術などの世界で戦えるスキルや、最後までやり抜く力、負けない強い気持ちをもちた選手が集まる。海外選手に比べて小さな体格ながらも、日本が得意とする同調性や緻密さが足先まで揃った演技につながっている。また、一瞬一瞬の「形」の美しさ、ジャンプや柔軟性などの身体難度は、世界でも高い評価を受けている。

## 3 フェアリー ジャパン POLA 名前の由来

妖精のように美しくしなやかに舞う選手たちの華やかな演技が名前の由来。世界中の人々を新体操の魅力の虜にしたいという願いにより選手選抜制の導入と同時期に「フェアリー ジャパン」と命名された。その後、美を競うスポーツである新体操を大手化粧品会社「ポーラ」が全面的に協力するという形でオフィシャルパートナー契約が結ばれ、2007年8月に現在の「フェアリー ジャパン POLA」が新体操日本代表の正式呼称となった。



## 5 どうしたら フェアリー ジャパン POLAに入れる?

高い能力だけでなく美しさも重視される競技のため、すべてにおいて秀でた選手を選抜し強化したうえで国際大会に出場すべく、2005年に選抜体制ができた。例えば、柔軟性が高くスタイルがいい人、磨けば世界で戦えるレベルに成長できる「原石」のような人材を探している。クラブからの推薦もあれば、自分からオーディションに来る人もいる。最終的に「最後までやり抜く力」「負けない強い気持ち」をもつ人が残っている。

新体操強化本部長・村田由香里さんと鈴木歩佳選手、竹中七海選手が語るフェアリー ジャパン POLAとは。  
文・構成/狩野有美、沼倉瑠乃、内山 萌、黒岩実夢、滝下咲理菜、伊藤 碧

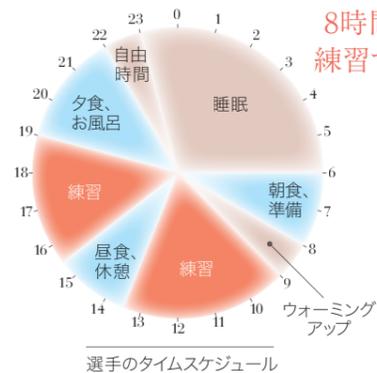
## 6 美を保つための食生活

選手はよりよい演技をするために、美しいスタイルをキープすることが大切である反面、意外にも体重の制限はない。普段は、ハードな練習でも動ける体をつくるために、バランスよく食べている。体型が気になるときは栄養士に相談して、野菜や主食主菜を意識した食事を摂る。海外でも食事の習慣を保ち、パワーを補うために米は必需品である。反対に、海外のパンはバターが多く、疲れが取れにくかったり、脂肪が増えたりするため控える。

## 7 強さを磨く選手たちの一日

日本のトップアスリート専用施設である、味の素ナショナルトレーニングセンターで共同生活をしている選手たち。練習メニューが終わらないときや試合シーズンは21時まで練習することも。寝る前は選手の自由時間。各々自由に過ごしている。竹中選手は、その日の練習を振り返り整理整頓をしているそう。リビングに集まって夜遅くまで雑談することも。年齢層の幅が広い選手たちがチームワークを高めるための大切な時間になっている。

一日合計  
8時間も  
練習する!



## 8 ポーラのサポートを受ける側の思い

選手や曲、開催地に合わせたメイクや、汗に強く崩れにくいメイクが開発されるなど、選手たちはポーラのサポートがあるから日々の活動ができて感謝の気持ちを語った。また「スキンケア用品の提供や肌の悩みの相談など私たちに寄り添うサポートが手厚く、メイクや肌のケアに関する知識を得ることができてありがたい」とも。ポーラのサポートによって彼女たちは、代表選手として、一人の女性として輝くことができています。

## 9 今後の目標・意気込み

パリオリンピックの出場が叶わず悔しい思いをしたフェアリー ジャパン POLA。「日本にしかできない緻密な演技に磨きをかけていきたい」と村田強化本部長は語る。2025年からルールが変更になるため、鈴木選手は現在、新しいルールで高得点を出そうとできるような体づくりや手具操作の練習に力を入れているという。「ロサンゼルスオリンピックに全員がレベルアップした状態で向かえるように自分の課題に向き合っていきたいです」



# 世界と戦う フェアリー ジャパン POLAの「美」を サポートする

「誰かの可能性を応援したい」  
人々の「美」を支えるために  
ポーラが担う役割とは何か、  
初の女性社長が語る。  
文・構成／吉川菜月

POLA

代表取締役社長

## 及川美紀さん

Oikawa Miki

おいかわ・みき／宮城県  
石巻市出身。東京女子大  
学卒業後、ポーラに入社。  
2020年に社長に就任。  
大手化粧品会社で初め  
て女性社長が誕生した。

繋がってサポート  
することで  
可能性を広げ  
勇気を与えたい。

「We Care More. 世界を変え  
る、心づかいを。」は、ポーラが掲  
げている企業スローガンである。  
これは目の前にいる誰かをケアす  
ることで世界が変わる可能性が  
あるということを意味する。及川社  
長は、「すべての人は可能性を秘  
めていて、背中を押し、支える活  
動をすることが輝かしい成果に繋  
がると信じている」と語る。「誰か  
の可能性を応援したい」という思  
いがポーラの歴史の中に脈々と流  
れているのだ。フェアリー ジャパン  
POLAのメンバーも全国から集ま  
ってきた若さ溢れる、可能性をも  
った人たち。集まった時点ではまだ  
世界と戦ったことがない人たちか  
もしれないが、サポート活動をする  
ことで大きく花開くと期待してい  
るのだという。「誰かの可能性を  
広げたり、勇気を与えることが  
できる、それがすべてのサポート活  
動の原点です」



for students

「自分らしさ」を一番  
大切にしてほしい。  
他の誰にもない、  
あなたにとっての、  
あなただけの「美しさ」  
がそこにはあるはず。

Column

ポーラの  
始まりは  
妻への  
愛情から

昭和4年、創業者の鈴木忍さんは当時厳しい生活の中で自身の妻の手が荒れているのを見た。愛する妻の手を守るため、最高の材料とレシピでハンドクリームをつ

Column

及川社長が  
「すべての  
女性に  
伝えたい」  
メッセージ

大手化粧品会社初の女性社長となった及川社長。当時その事実「日本は遅れている」と感じたと。「私は女子高・女子大に通い、能力のある女性たちをたくさん

見てきました。そんな女性たちがキャリアを中断してしまってもったいない。女性が主体的に活躍する機会を与えられてしかるべき」と語った。

# 初代美容コーチに聞く フェアリー ジャパン POLAサポート活動の始まり

2007年8月からスタートした  
フェアリー ジャパン POLAの  
全面的なサポート活動。  
ゼロベースからの始まりの1か月を  
初代美容コーチが語る。  
文・構成／小嶋未緒里

POLA

ブランドコミュニケーション部部长／初代美容コーチ

## 渡邊和子さん

Watanabe Kazuko

わたなべ・かずこ／大学  
卒業後ポーラに入社。  
10年教育関係、10年  
商品開発、10年広告宣  
伝を担当。2007年初代  
美容コーチ就任。

17年間続く  
サポート活動。  
始まりの  
1か月とは。

渡邊さんは初代美容コーチとして現在まで17年間続くフェアリー ジャパン POLAサポート活動の基礎を築いた。「チャレンジする人を応援する」というポーラの理念のもと、2007年8月新体操日本代表のサポートを開始。渡邊さんを含む3人が美容コーチとして選ばれた。1か月後ギリシャで開催される世界選手権に向けて、まず当時の新体操強化本部長・山崎浩子さんにヒアリング。山崎さんの要求は世界で戦える大人っぽさ、団体選手5人が5つ子に見える、15m先の審査員から見えるメイク。また気持ちを整える儀式として選手自らメイクできること。「それが最初のオーダーでした。メイクパターンをつくってはダメ出しを受けた。演技との兼ね合いとか、もっと強く華やかにとか」。OKが出るまで試行錯誤を繰り返し、ポーラ初の新体操メイクが完成した。



for students

自分が好きなこと、  
得意なこと、世の中から  
求められること。  
この3つの交差点を  
探していくと  
すごいいいと思います。



Column

初代  
美容コーチが見た  
選手たちの  
オン/オフ

渡邊さんと選手たちの初対面は、夏休み中の高校の体育館。冷房もなく、汗だくで泣きながら練習している姿に「感動して泣いた」という。その後、洗顔指導やメイク

練習の時間にはリラックスして恋バナもする関係性に。「酷暑の体育館は原点ですね(笑)」と語る。2008年北京オリンピックではメイクを担当。「あのときの選手た

ちは、すごい緊張状態でした。私はただ触ってメイクをするだけ。選手も一言も話さないで鏡の中をすごい目で見ていました。あれは印象的です。仕上がる頃、目づ



# J



## 2024年のテーマは「月白メイク」

### フェアリー ジャパン POLA 2024年の団体メーク「Japan Beauty 月白メーク」を大解説!

文・構成 / 大場穂野香、竹下夏美、若月水奈

japan beauty

## 日本らしさで勝負する

point 1

## ベースメイク

激しい演技で汗をかいても、崩れにくいベースメイクを目指し、汗・皮脂に強いB.Aブランドのアイテムを採用。ハイライトとシェーディングで、陰影を際立たせ立体感を出す。

point 2

## チーク

青みを帯びたプラムカラーのチークが、肌の透明感を引き立てる。こめかみから頬骨に沿って内側に塗ることで、立体感のある顔印象に。アイメークとリップとのバランスを取る役割があり、青みと赤みのバランスにこだわっている。

point 3

## リップ

リップは、演技や衣装に合わせて選べるよう深みのあるクールな印象のチェリーレッド、茜色をイメージしてパールを効かせた華やかな印象のパールレッドの2色展開。アイカラーをクールかつ華やかな印象に。

point 4

# 4

## 眉

眉尻は小鼻と目尻の延長線上まで描き、長さを出すことで立体感を出すとともにシャープに描いて、横から見ても美しい顔印象に。アウトラインを美しく描くことで、メーク全体にまとまりをもたらす。

point 5

# 5

## アイライン

月の光をイメージした白のキャットラインが特徴。アイカラーの黒と重なることで、薄い青みを帯びた月白色になり白目をきれいにさせる効果もある。目尻から1cm程度長さを出すことで、強いまなざしをつくる。

point 6

# 6

## アイカラー

選手の希望から誕生した、「月白メーク」専用のアイカラー。夜空をイメージした黒を目尻側に、星をイメージしたラメを目頭側に入れてグラデーションをつくり、目力と立体感を強調させる。

## 月白メークとは?

日本で伝統的に化粧の色に用いられてきた白・黒・赤を使用し、日本人ならではの美しさと強さを表現。「月白」とは、月が東の空に昇る時に空が段々明るく白んでいく様子を

を表す言葉。「選手たちが夜空を明るく照らす月のように、新体操を通して周囲を明るく照らす存在になる」ことを願って名付けられた。また、白のアイラインがアイカラーと

重なることでやや青みを帯び、月白色になることも名前の由来である。



ベースメイク

point 1

a.B.A パウダリファンデーション (リフィル・パフ付き) 全6色、各10g ¥12,100 SPF25・PA++ 別売ケース ¥2,750 取替用パフ ¥385

b.B.A リキッドファンデーション 全6色、各30mL ¥12,100 SPF30・PA+++

c.B.A デイセラム リキッド 30mL ¥9,900 SPF40・PA+++

d.B.A 3D コンシーラー 全2色、各12g ¥6,930

e.B.A カラーズ アイマスカラ 全2色 ¥5,060

f.B.A カラーズ アイブロー ペンシル 全2色 ¥2,750 別売ホルダー ¥1,100

※ハイライト・シェーディング、チーク、リップ、アイカラー、アイライナーは選手専用用品です。

point 5



point 3



リップ

ハイライト・シェーディング

point 1



アイカラー

point 6

point 2



チーク



マスカラ

point 4

アイブロー

### Column

#### 15m先の審査員に届け! 美しいメークよ!

新体操を演技する選手と審査員との間は何と15m前後の距離がある。審査員にアピールするためにシェーディングを濃く入れ、目元が立体的に見えるように濃淡をはっきりさせるメークを施している。審査員にどのように見えるのか、教室で写真を撮影した。15mがどれだけ遠いのか実感。





# 世界を魅了するメイク 専属で選手の「美」を サポートする戦士たち

ポーラから選出された  
美のエキスパートたち。  
選手にリスペクトの心を持ち、  
ともに世界一を目指す。  
最高峰の美を表現する  
美容コーチに注目する。

文・構成／竹下夏美、  
佐々木美々、岡 千尋

POLA

美容コーチ兼メイクアップディレクター

## 中岡弘喜さん

Nakaoka Hiroki

なかおか ひろき／美  
容コーチリーダー。商品  
やビジュアル開発をはじめ、  
同社メイクのすべて  
に精通するディレクター  
兼アーティスト。

### 確かなスキルと 情熱でリードする 男性美容コーチ。

美容コーチ唯一の男性で、リーダーも務める中岡さんは、チーム全員の個性を受け入れ、それを活かすようなリーダーシップを意識している。キャリアや感性が様々なスペシャリストの集まりであるため、一人ひとりをリスペクトし、それぞれの長所を活かした活動ができるように心がけているのだ。

また、美容コーチのブランディングにも注力。フェアリー ジャパン POLAに入りたいと思う選手が多いように、美容コーチも多くの人に目指してもらえよう存在になりたいと、自身も含め全員のスキルアップを図っている。

中岡さんには、大きな夢がある。それは、パリ・コレクションのバックステージでメイクをすることだ。「最先端のモードがつくられる場所で、自分が先頭に立ちたい。そしていつか自身の本を出版したい」と熱く語った。



for students

人とのつながりが  
自分の武器になり、  
夢や目標に近づく糧に。  
人を大切に、  
つながりを大切に、  
そして自分も大切に。

for men  
「男性×美容」は  
まだまだ発展途上。  
美容好きな男性、  
美容を職にする男性が  
増えていくと、  
嬉しい。

Column

### 跡見学生が “フェアリー ジャパン POLA”に変身!?

2024年4月29日跡見  
学園女子大学にて、中  
岡さんと山村実香さん  
(P14掲載)による特別  
授業が行われた。学生  
がモデルとなり、「Japan  
Beauty 月白メイク」の

実演がスタート。素顔と  
比較しやすいように、半  
顔にメイクを施した。  
徐々に、新体操選手の  
顔に変わっていく。中岡  
さんの巧みなメイク技  
術とユーモアたっぷりの

話術に、皆が釘付けとなる。  
そしてメイクが完成し、  
フェアリー ジャパン  
POLAに変身した学生の  
姿に、拍手と歓声が  
起きた。



### 美容 コーチ とは?

美容コーチとは、フェアリー ジャパン POLAをサポートする美のプロフェッショナル。選手が試合でまとうメイクの開発を担う。選手や強化本部長にその年の演技テーマ

などをヒアリングし、プランを作成。その後、メイク品開発研究員(P13掲載)とともに色や質感を細部までこだわりながらメイクアイテムを開発。選手が自身でもメイク

を行えるための指導と、メイクの土台となる健やかな肌を保つためのスキンケアアドバイスも行うことで、ともに世界一を目指す。

POLA

美容コーチ兼顧客戦略部

## 荻野 和子さん

Ogino Kazuko

おぎの かずこ／東京都  
出身。2011年に美容  
コーチに就任。顧客戦  
略部で公式HP、SNSで  
公開する美容情報や動  
画等を作成。



for students

学生だからできることや、  
没頭できる何かを見つけ、  
それを思いっきり  
頑張りました  
という人生が  
楽しいと思います。

### メイクへの探究心を もち続ける ベテラン美容コーチ。

「フェアリー ジャパン POLAの仕事にはずっと関わってきたい」と言う荻野さん。1998年に入社し、「メイクといえは荻野さん」という存在で、2011年から美容コーチに就任した。他の美容コーチとともに、メイク品を開発する研究者とディスカッションを重ね、流行色を取り入れながらアイメイクやリップなどの色の開発を行っている。選手には、「メイクの力で自信をもって演技ができるように、美容が楽しい!と思ってもらえるように」と願って接している。舞台メイクのお手伝いや、特殊メイクを外部に学びに行くなど、メイクに対して、探求心を常にもつ。「大人にも子どもにも、メイクをすることで変わる自分へのトキメキを感じてほしい」

POLA

美容コーチ兼TB事業企画部

## 花高 亜紀さん

Hanataka Aki

はなたか あき／2009  
年に入社し、近畿の教  
育部門にてメイク教育  
リーダーを務める。2021  
年、本社異動とともに美  
容コーチ就任。



for students

トレンドをキャッチして  
自分を高めてください!  
蓄えた知識と、  
蓄えた手入れは  
大人になって、  
価値があります。

### 憧れの 美容コーチに就任 戦う姿とともに憧れをもつ。

美容コーチは、各部署から選ばれた得意分野が違うメンバーが集まり、チーム全体で協力し合いながら選手たちの美をサポートしている。そんな美容コーチチームを「本当にいいチームです」と話す花高さんは選手にもリスペクトをもつ。「世界で戦う選手たちの練習風景は、思わず息を呑むほどです。何度も何度も挑戦し諦めない強さで技を決める。本当に感動します。そんな彼女たちが大舞台で輝けるように、肌状態やメイクを万全にすべく、日頃の肌の悩みを払拭しながらサポートしています」

ポーラのコスメが世界中の人のポーチに入っていることを目指し、自分自身が宣伝隊長となり、ポーラの存在価値を高めていきたいと語る。

Column

### 鏡を使わない メイクレッスン



YouTube

鏡を使わないメイクレッスンは、目の見えない方に向けて2022年から始まったプロジェクト。美容コーチの中岡さんと花高さんが中心となり、目の見えない方々の

優れた手指感覚を活かしてメイクを楽しめる方法を開発し、レッスンを展開中。障がいの有無にかかわらず、美容を通して心を豊かにするこのレッスンを広めていき

いと中岡さんは語る。左の二次元バーコードから、参加者の感想などを収録した動画が観られる。



世界を魅了するメイク  
専属で選手の「美」を  
サポートする戦士たち

文・構成/春日小優季、藤川結衣、針谷亜音、増坂智恵



POLA

美容コーチ兼PS事業部

和田  
沙絵さん

Wada Sae

わだ・さえ/百貨店におけるメイク商材のプロモーション企画業務に従事。前部署で担当した美容教育がきっかけで美容コーチに就任。



for students

何をするにも、「こうあるべき」、「一般的にはこう」ということにとらわれずに自分の気持ちを大事にしてほしいです。

選手と美容コーチの  
思いを乗せた  
メイクをつくる。

試合当日、選手は自分でメイクをする。だから、メイクを教えることは美容コーチの重要な仕事だ。和田さんは、選手にメイクを教える際、選手が実際にメイクをするときに必要なポイントを覚えやすいよう、頭の中でイメージをつくりやすい言葉選びを意識している。

選手のメイクプランを開発している和田さんは、衣装や曲、演技内容にマッチするだけでなく、選手の心の中も表現するような「トータルなメイク」を目指している。「そのためには美容コーチの希望を一方的に伝えるのではなく、選手の大会に向けての思いや、これまで歩んできた道のりを聞くことが大切」選手たちは、美容コーチと選手の思いが乗せられたメイクで世界の舞台に立つのである。

POLA

美容コーチ兼TB営業部コンサルタント

池田  
美穂子さん

Ikeda Mihoko

いけだ・みほこ/東京都出身。通常業務では、エステサロンにおける販売員の教育や店舗経営のコンサルティングを担当している。



for students

ぜひ、自分の長所を見つめ直し、その長所を好きなことや興味があることと結びつけて専門的に探究していきましょう。

肌・心・カラダから  
選手の美を  
サポート。

池田さんは、キッズ新体操教室でのメイクセミナーの企画に関わる中で、新体操に憧れを抱き成長する子どもたちの姿に感動し、新体操に関わる美容コーチを志す。美容コーチ就任後は、メイクやスキンケアのアドバイスだけでなく、食生活や精神面など、肌・心・カラダのアドバイスも行うことで世界で戦う選手を支えている。今後の目標について「ポーラの美容コーチとして世界を目指す選手の力になれるよう、世界一の心配りと活動を目指し、選手たちとともに新体操を盛り上げていきたい」と語る。美容コーチとなるきっかけをくれたキッズ選手が日本代表選手となって、池田さんがフェアリーメイクを担当する日が来るかもしれない。

POLA

美容コーチ兼顧客戦略部

山下 咲さん

Yamashita Saki

やました・さき/富山県出身。現在は顧客とのコミュニケーション企画を行う顧客戦略部に所属。2023年美容コーチに就任。



for students

私は人の心を前向きに変える美容の魅力と出会えました。皆さんもそのような一瞬の出会いを大切にしてほしいです。

経験と知識を  
活かし「憧れの  
美容コーチ」へ。

ポーラ社内でも憧れの的である美容コーチ。2023年、初の社内公募で山下さんは見事選出された。実技試験もあったことからメイクの腕は確かだ。しかし、テクニック以上の強みもある。2020年から3年間敏感肌向けスキンケアブランド「DECENCIA」で、多くの顧客からの肌悩みの声を聞き、それぞれに合ったスキンケア方法を提案してきた。そこで積み重ねた経験が、プレッシャーと過酷な練習により生じる選手の肌のゆらぎに対し、的確なアドバイスで肌と心のサポートができることに繋がっている。「ポーラの美容コーチとして、メイクを通じて誰かの自信や勇気を後押しすることをモットーに、メイクの魅力をもっと伝えていきたい」

POLA

美容コーチ兼ブランドクリエイティブ部

橋本  
彩音さん

Hashimoto Ayane

はしもと・あやね/広島県出身。2022年ポーラ入社。本業務では主にメイク品の企画開発を担当。2024年美容コーチに就任。



for students

周りの目を気にしすぎず自分の価値観を大切にしたい。自分の軸をもち、目標に向かって進んでください。

笑顔が一番のやりがい！  
選手を支える  
最年少美容コーチ。

最年少美容コーチの橋本さん。選手と最も年齢に近い彼女は、身近な存在でいられるように共感を大切に、こぼした悩みや本音を聞き逃さず選手に寄り添って話を聞くことを心がけている。「選手の立場に立って傾聴することを大事にしています」

完成したメイク品を渡したときに、歓声を上げて喜ぶ選手の笑顔を見ることがやりがいの一つだが、メイク品を渡して終わりではない。「初めてメイク品を手にとったときの純粋でかわいい姿。アスリートの顔で強く美しく舞台に立っている姿。本番までの過程に寄り添ってきたからこそ、演技をする選手の姿を見たときの感動は忘れられません。演技を見るたびに心打たれます」

Column

キッズや  
ジュニア選手  
への  
メイク  
レクチャー

メイクを通して新体操の楽しさを広げるために、美容コーチが新体操クラブを訪問し、キッズやジュニア選手、保護者に向けてメイクをレクチャー。フェアリー

パン POLAと同じ「フェアリーメイク」をしてもらった子どもたちは喜びの歓声を上げ、笑顔が浮かべる。新体操の未来を担う子どもたちを見て中岡さんは「めっちゃ

くちゃかわいい。5〜6歳の子が一生懸命に踊っている姿を見ると、心が洗われる」と目を細めた。



Column

ポーラ  
ファミリーデー  
でも  
美容コーチは  
大活躍

ポーラで働く親たちの職場を子どもが見学できるイベント。仕事への興味をもってもらうきっかけとポーラの魅力がたくさん詰まっているコンテンツの一つである

メイクアップ体験では、子どもたちと話しながら美容コーチが要望に合わせたメイクをする姿が見られた。最初は緊張している様子だったが、美容コーチが笑顔

を見せつつ、真剣なまなざしと繊細な手つきでメイクをつくり上げると、子どもたちははじけるような笑顔を見せた。





メイク品で彩りと美を形づくる  
プロの仕事

POLA

ブランドクリエイティブ部B.A開発チーム

萱沼  
沙由梨さん

かやぬま・さゆり/山梨  
県出身。育児と仕事を  
両立する双子の母。B.A  
開発チームのメイクプ  
ロダクトリーダー。

Kayanuma Sayuri



for students

化粧品は美しさだけ  
ではなく、やる気や自信を  
与えてくれます。  
人生の可能性を  
広げるものだと思って  
もらえると嬉しいです。

人の可能性が  
広がるメイク品を  
開発するために。

B.Aならではの本格的なスキンケア発想から生まれた  
B.Aメイク品の開発に携わってきた萱沼さん。情報収集、  
企画会議、プレゼン、研究者との打ち合わせを通して、  
200回以上もの試作を繰り返し、商品を開発するのが彼  
女の仕事である。開発するうえで大事にしていることは  
妥協しないこと。「お客様に必ず喜んでいただける品質  
を目指して、それが達成できないなら発売をしない!という  
覚悟で開発をしています」

POLA

ブランドクリエイティブ部ショット開発チーム

石崎  
真里奈さん

いしざき・まりな/イン  
ターンシップ先であった  
ポーラへ入社。商品企  
画部でリンクルショット  
等の開発に携わる。美  
容コーチも経験。

Ishizaki Marina



for students

自分の好きなことに  
どっぷり浸かり  
突き詰めること。  
好きなことに  
全力で取り組むことは  
きっと強みになる。

“美しさ”は  
人にパワーを  
与えると信じて。

「美しいもの、きれいなものに囲まれたい」という思いで化  
粧品業界へ。メイク品は一番身近な贅沢品であり、美し  
いものには人の心を動かす力があると信じている。「自身  
もメイク好きな一人の女性として常に顧客の視点に立つ  
ことを意識して、開発に携わっています」  
「好きなものは追求したい」という石崎さんは20年以上クラ  
シックバレエを続けている。「バレエで息抜きをすることが、  
仕事にもよい刺激を与えています」

Column



Ito  
Sachiko

POLA  
ブランドデザイン部  
第一ブランドデザインチーム  
デザイナー

伊東幸子さん

いとう・さちこ/ポーラのパッケー  
ジデザイナー。前職でのグラフィッ  
クデザインの経験を活かし、選手  
専用用品のためのロゴ制作をした。

選手への  
熱い応援を  
込めて制作する  
ロゴデザイン

選手専用用品のために右  
下のロゴをデザインした  
伊東さん。「選手の気持  
ちが高揚し、連帯感をも  
ち、美しく強く栄光へと  
向かってほしいという思  
いを込め、デザインを制  
作した」と語る。縦横に  
延びたラインは、栄光・  
繋がる力・成長を、円

形には勝利のメダルを  
イメージし、選手への思  
いを形に落とし込んだ。



世界で戦う選手たちを彩るメイク品、  
それらをつくり上げるためにメイク品の意図を形にして  
研究・開発を行うプロに迫る。  
文・構成/大場穂野香、鎌田琴羽、近田安美、  
佐藤の花、中島莉子、西村果南

for students

自分の強みを一つでも  
見つけ、自分が楽しいと  
思うことを極めてみる。  
そうすることで  
視野が広がり  
自分の成長に繋がる。

for students

自由に使える時間を  
大切に、自分の好きなこと  
や興味をもった  
ことを追求し、  
時間を惜しまず取り  
組んでほしい。



for students

選択肢があり悩むと思っ  
ますが、どの道を選択  
しても自分次第で  
うまくいくので  
不安にならずに  
進んでほしい。

for students

好奇心を大事に。好きな  
ことに全力で向き合い  
ながら好奇心を育てる  
ことで、社会で活躍  
できる自分の“強み”を  
見つけることができる。

POLA

製品設計開発部  
内容物開発センター  
副主任研究員

宗吉  
裕樹さん

むねよし・ゆうき/広島県出身。  
大学、大学院で化学を学ぶ。自らの  
学びを活かすため、美容業界へ。  
今回の特別メイク品開発ではチー  
クを担当した。

彩るだけでなく  
心に訴えかける  
ものを求めて。

宗吉さんたち研究員は、  
理想のために何度も実験を  
繰り返し、選手専用の化粧  
品をつくる。知識と経験で  
選手の活躍を支えるのだ。  
「メイク品は彩るだけでなく  
心に訴えかけるものである  
ため、自分たちがつくり上げ  
たものが選手たちの演技  
向上に繋がればと思う」

業界をざわつかせ、今ま  
での常識を変える開発。驚  
きを与えるものづくりをし続  
けたいと言う。

POLA

製品設計開発部  
内容物開発センター  
研究員

室笠  
有香さん

むろかさ・ゆか/学生時代の肌の  
悩みから化粧品の開発に興味をも  
ち2023年ポーラ化成工業入社。  
フェアリー ジャパン POLAのアイ  
カラーを担当した。

言葉から  
“戦う”メイク品  
をつくり出す。

メイク品開発において  
は、ミーティングを大切に  
しており、「言葉の表面だけ  
でなく、その真意を理解し  
たい」と語る。選手や美容  
コーチのアイカラーに対する希  
望を傾聴し、細かなラメの  
大きさや色合いで輝き具合  
を叶えている。

室笠さんは学生時代に  
肌の悩みを抱え、多くの化  
粧品を試してきた。この経  
験が研究に対する熱意に  
つながっている。

POLA

製品設計開発部  
内容物開発センター  
研究員

元平  
千尋さん

もとひら・ちひろ/化粧品が好きと  
いう気持ちを胸に、大学で化学の  
分野を学んだ。2022年ポーラ化  
成工業に入社しリップ以外にもス  
キンケアなどを開発している。

選手の華やかさを  
より輝かせる  
研究員。

リップの開発を担当して  
いる元平さんは、競技用の  
リップには、「舞台映えや化  
粧のもちが重視されるだけ  
ではなく、選手の気持ちを  
上げる力がある」と語った。  
舞台映えする大きなパール  
や化粧もちのよいマットな質  
感、唇が乾燥しやすくな  
るため使い心地のよさとの  
両立が難しいが、調整を重  
ね妥協を許さない。突き詰  
めた製品づくりには彼女の  
思いが詰まっている。

POLA

製品設計開発部  
内容物開発センター  
研究員

瀬田  
啓一郎さん

せた・けいいちろう/大学生時代  
にメイクやスキンケアをして自身が  
前向きになったことから、化粧品は  
魅力的な素材だと関心をもち、そ  
の開発者を志す。

メイク品開発で  
戦う選手への  
サポートを。

美容コーチとのやり取り  
の統括や開発スケジュール  
の管理を担当している開発  
リーダーの瀬田さん。「一般  
に販売する化粧品との大き  
な違いは、使用する人の顔  
が直に見えること」だと言  
う。使う人の顔をリアルに思  
い浮かべながら開発できる  
ことがやりがいに繋がって  
いる。「メイクで選手の気持  
ちが上がる。パフォーマンス  
の力になる。それが私たち  
の目指すところ」



## 「もっと多くの人へ」魅力を届ける



for students

自分の魅力を考える。  
人生の支えになり、  
落ち込むことがあっても  
自分だけはいつでも  
自分のことを  
認めてあげられます。



for students

学生時代にとにかく  
楽しむ！それが  
仕事につながります。  
たくさんやりたい  
ことを楽しんで  
ください。



for students

学生時代の経験や人脈が  
仕事につながることもある。  
学生のうちにたくさん  
遊び、いろいろな  
経験をして出会いを  
大切にしてほしい。

POLA

ブランドコミュニケーション部  
PR

### 佐藤 恭子さん

さとう・きょうこ / ポーラの掲げる企業理念「Science. Art. Love.」に深く共感し、新卒でポーラに入社。若手広報としてポーラの魅力を伝える。

最年少の  
視点から支える  
愛のこもったPR。

“されて嬉しいことを人にして、されて嫌なことは人にするな”。両親からこのような教えを受けた佐藤さんは、常に相手の気持ちを想像することを心がけている。HPに活動報告やプレスリリースなどを掲載する広報として、「読み手が読みやすく、分かりやすいように心がけることも思いやりの一つだと思います」と語る。広報チームの中では最年少。だからこそ気付ける消費者に近い視点や意見を武器に、仕事をしている。

POLA

ブランドコミュニケーション部  
PRマネージャー

### 小林 由美子さん

こばやし・ゆみこ / 化粧品会社や出版社などを経てポーラに入社。PRマネージャーとしてPR企画チームをまとめ、ポーラの魅力を発信している。

リテラシーに  
合わせた  
コミュニケーションを。

小林さんは、PRマネージャーとしてトップジャーナリストをはじめ、幅広くメディアリレーションを担当する。専門知識の有無を問わず、誰にでも伝わるよう相手のリテラシーに合わせ、相互理解を重視したコミュニケーションを心がけている。第三者やメディアの評価を獲得することが大切なPR。「独りよがりではなく、相手によいと思ってもらい、ファンになってもらえること。心を動かすことができるのはPRの魅力であり、やりがいです」

POLA

ブランドコミュニケーション部  
PR

### 山村 実香さん

やまむら・みか / 前職のPR会社で、フェアリー ジャパン POLAに携わり、もっと関わりたいと思いポーラに転職。現在は2児を育てるママさんPR。

裏方から表舞台まで  
マルチに活躍する  
何でも屋。

コーポレート広報から製品PRまで多岐にわたって活動するため、日々奔走する山村さんは、フェアリー ジャパン POLAが所属する体操協会と会社をつなげる窓口的役割を担っている。そんな彼女のモットーはメディアやインフルエンサーの方々にポーラ、そしてフェアリー ジャパン POLAに深い愛着をもってもらえるようなPRをすること。「相手に私たちのブランドを愛してもらってこそ一流のPRだと考えます」

宣伝をする時代からコミュニケーションをする時代へ  
多くの人にブランドを愛してもらえるよう縁の下で支える5人の仕事。

文・構成 / 山本恵実、六川萌葉美、若月水奈、川原笑里、小林莉菜



for students

インプットする量が大事。  
好き嫌い関係なく  
たくさんものに触れ、  
感じたことを  
言語化できるように  
なってほしい。



for students

やりたいことや  
興味を持ったことには  
そう思ったときに  
チャレンジすること。  
意味がないと思うことも  
その先につながります。

POLA

ブランドコミュニケーション部  
コミュニケーション企画チーム

### 高橋 力さん

たかはし・りき / 早稲田大学卒業。ブランドスイッチが起きにくい化粧品という商材に興味を持ち、プロモーションに携わりたいと考え、2019年ポーラに入社。

受け手にとって  
「魅力的に伝わる」  
を目指す。

高橋さんの仕事は、新製品やブランドのプロモーション企画・進行、メディアプランニング、店頭でのコミュニケーションを設計すること。その中で「受け手にとって、正しく魅力的に伝わることを意識している」と話す。「我々の業務は、ブランドに初めて触れるお客様との接点であり入口です。自分の取り組み次第で、新たにブランドのファンになってもらえるかもしれないこの仕事に、責任と魅力を感じています」

POLA

ブランドコミュニケーション部  
コミュニケーション企画チーム

### 上村 梨花さん

うえむら・りなか / 立命館大学卒業。情緒的価値と女性の生き方を軸に就活の中で、ポーラが発するコミュニケーションに惹かれ2020年ポーラに入社。

想像を実現させ  
心がときめく  
プロモーションを行う。

商品のプロモーション企画を立案し、実行する上村さん。ただ、商品やフェアリー ジャパン POLAに興味関心をもってもらうだけでなく、お客様と同じ立場に立ったときに自分自身の心がときめくような企画を届けている。そのために、相手を想像し、誰も誤解することのない伝え方を常に意識している。複数の施策を同時に進める大変さがあるが、「自分の想像や、やりたいことを実現できることがやりがい」と語る。

Column

子どもたちの  
思い出づくりの  
場を提供

新体操の全国大会、SASAKICUPでは、新たな企画として出展ブースにプリントシール機を設置した。そこで反響を呼び、新体操の世界三大選手権の一つである、イオンカップ2023でも同様に設置したところ、新体操を習う子どもたちが多く訪れ、思い出を形に残せる場として大盛況となった。



SASAKICUP  
(2023年)での  
出展ブース。



大会のロゴなど  
が入ったフレー  
ムで撮影できる。

F  
fjp  
official  
ambassador

FJP official ambassador

# 新体操日本代表主将から 選手と美容コーチを 繋ぐ架け橋に

初の公式アンバサダーに  
就任した元日本代表主将が  
担っている役割とは。  
現役選手のために何ができるのか、  
元アスリートとしての  
経験から語る。  
文・構成/尾島 涼

POLA  
フェアリー ジャパン POLA公式アンバサダー

## 田中琴乃さん

Tanaka Kotono

たなか・ことの/15歳で  
日本代表に選ばれ、2度  
の五輪に出場。ロンドン  
五輪では主将を務める。  
引退後は選手のサポー  
トや解説者として活躍。

### 世界と戦う “美”とは何か。 現役選手に 背中伝える。

ポエラが美容サポートの活動を始めたときは現役選手だった田中さん。専属の美容コーチからの指導を通して、自分を美しく保つことが競技パフォーマンスに大きな影響を与えることを実感したという。現在は、フェアリー ジャパン POLA公式アンバサダーとしてイベントでのPR活動や講演会などスポーツと美容をテーマにしたプロモーション活動を行っている。また、選手のメイク品開発にも携わる田中さんは、唯一の元アスリートとして自身の知見を伝えている。自分の培った経験を活かして選手と美容コーチを繋ぐ架け橋になっているのだ。「選手の手本となるよう常に美しくいることを心がけています。言葉で伝える、見せて伝えるだけでなく、背中伝える部分もあると思います」と語る。

for students  
努力する過程で  
培ってきたものは、  
将来必ず活かせる。  
今頑張っていることに  
真っ直ぐ、一生懸命に  
なしてほしい。



田中琴乃新体操教室



上:ロンドン五輪(2012)  
下:北京五輪(2008)



Competition costume

# 大和撫子魂魅せる チャコットの衣装!

フェアリー ジャパン POLAの団体  
衣装を、初めて手がけたチャコット。  
技術と美しさへの信念を紹介。  
文・構成/渡邊千風美、横島愛乃、  
本田詩織、小野寺真優

### 好きをエネルギーに チームでつくる プロの方々。

バレエ経験者など競技に情熱的な思いを持つ専門家たちが揃い、トゥシューズや衣装を展開しているチャコット。2013年からフェアリー ジャパン POLAの使用手具やウェアを提供。2024年新体操日本代表の団体衣装(フープ×5)を初めて手がけた。「長くサポートし、ともに歩む私たちだからこそ、魅力を最大限に表現できる」と金原さん。演技曲「ソーラン節」の要素と葛飾北斎の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」を衣装に組み込み「日本の美」を具象化している。

## Chacott

バレエ・アトスポーツ事業部  
アトスポーツ商品課

### 金原史枝さん

衣装デザインを担当した金原さん。オフィシャルサプライヤー契約当初から協賛商品のデザイン担当。「曲やテーマを基に演目の世界観を表現して製作」

販売二部  
アトスポーツ販売課

### 井関 舞さん

選手たちと企画生産部門をつなぐ窓口担当の井関さん。「選手やコーチの希望を形にする各分野のプロがいることがチャコットの強み」

経営企画部経営企画課  
広報・秘書リーダー

### 森田美由希さん

広報の森田さん。「チャコットは衣装を通じて選手たちを支え、2分30秒の演技で彼女たちの輝きを引き出すことを目指している」

Point 1  
曲からイメージをつくる!?  
チャコットの  
衣装製作過程  
演技曲から着物をベースとし  
袖の部分には芯材を入れ、  
捲ったときの活気ある力強さを表現。  
スカートは裾の曲線で波の美しさを魅せる。

Point 4  
美しさを放つ!  
クリスタルの輝き  
石は手作業で丁寧に取付けた。  
大きな石は縫いつけ小さな石は  
接着剤で確実に固定。  
この細部へのこだわりで  
魅力と強度が増す。

Point 2  
なぜ葛飾北斎  
なのか?  
製作前の段階で  
日本体操協会新体操の  
村田強化本部長より  
「北斎の絵を取り入れて  
ほしい」と要望があった。  
絵を大胆にみせるため  
背中一面に使用した。

Point 3  
着心地や  
ノンストレスを  
求めた  
独自素材と  
パターン  
ストレスを  
軽減できるやわらかな  
独自素材を使用。  
着脱しやすいデザインと  
肩甲骨周りの動きに  
支障がでにくい  
パターンを追求した。



Point 5  
選手への  
エールを込めて  
編んだ「叶い結び」  
強さを感じさせる  
金と黒の布を細長く  
裁断して編んだ帯締めを  
腰に巻きつけている。  
選手たちの活躍を  
願って、丁寧に一から  
手作業で製作。



衣装前面の  
叶い結び

Column  
オフィシャルウェア、  
レッスンウェアも  
チャコット製!  
オフィシャルウェア製作  
では、個人に合わせて採  
寸を行い整列したときに  
「揃って美しく見えるこ  
と」を意識している。一  
方、レッスンウェア製作  
では「練習していて着心  
地のよいこと、先生から  
選手を見たときに体の  
ラインがハッキリ見える  
こと」が重要である。また  
長時間の練習にも耐え  
られるよう、様々な項目  
の試験をクリアした素材  
を使用。さらに床で練習  
をしていても痛くなり  
にくいデザイン、パター  
ンの調整をしている。ウ  
ェアのデザインは  
毎年変更しており  
選手たちの要望も  
反映されるため、  
その年の選手の個  
性や好みも分かる  
という。



# フェアリー ジャパン POLA を支える21人に質問



フェアリー ジャパン POLAの美に関わる21人のオススの本や未来につながる美容法を紹介。文・構成/IC、小野寺真優、長沼和羽、本田詩織



### Visionsでお世話になった方々



岡本一宣デザイン事務所  
アートディレクター

岡本一宣さん



岡本一宣デザイン事務所  
マネジメントスタッフ

足立千佳子さん



岡本一宣デザイン事務所  
デザイナー

清水麻里さん



岡本一宣デザイン事務所  
デザイナー

三村さゆりさん



カメラマン

奥村暢欣さん



千代田プリントメディア

横溝彩萌さん

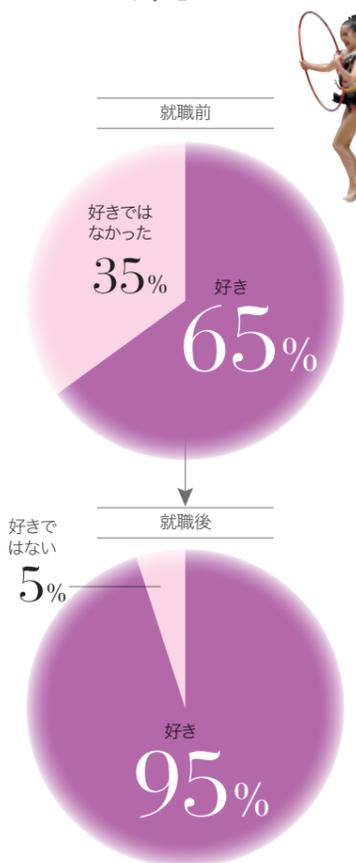


みね工房 校正者

平野 海さん

※本誌掲載の役職はすべて2024年7月現在のものです。※価格はすべて税込表記です。

## Q1 昔からメイク、コスメは好き?



### 就職する前から好き

幼少期からバレエをしていて舞台メイクしかやったことがなかったが、楽しい気持ちになれるところが好き。(石崎真里奈さん)

人を美しくするメイクテクニクに関心があった。コスメはいい香りがするものが好き。(荻野和子さん)

好きだったが、かわいいからというよりは自分のコンプレックスを隠すためにコスメを集めていた。(和田沙絵さん)

### 就職後に好きになった

コスメの企画や製作に携わる人や、お客様の声を身近で聞くことでメイクの力を知り好きになった。(山村実香さん)

この仕事に就いてからラメの違いや微妙な色の違いが分かるようになってどんどん好きになった。(中岡弘喜さん)

## Q2 好きを仕事にするうえで大事なことは?

佐藤恭子さん  
仕事とプライベートを分けずに一貫する

室笠有香さん  
例えば化粧品なら見るだけでなく、成分や色などを深く掘り下げていく

瀬田啓一郎さん  
好きなことほど距離感が大切だと思う。オンオフの切り替えを大事に

元平千尋さん  
「好き」という気持ちをなくさないように、時々思い出して大切にしている

石崎真里奈さん  
好きなことだからこそお客様目線で考える

萱沼沙由梨さん  
「好きなもの」を仕事にすると独りよがりになりがち。お客様の声をよく聞くこと

## Q3 美のセンスを磨く本は?

FACE FORWARD  
著/Keyyn Aucoin  
出版社/Little, Brown and Company  
Reprint版 ※絶版  
荻野さん/メイクの可能性にわくわくする本!

おんなのことば  
著/茨木のり子  
出版社/童話屋  
定価/1,650円  
及川美紀さん/この本の詩を読むと、自分を省みて律することができる。

「マティス 自由なフォルム」  
展覧会公式図録  
監修/クロディーヌ・グラモンほか  
出版社/読売新聞社  
国立新美術館  
定価/3,300円  
山下咲さん/感性が動かされる。

ゴールドはパープルを愛してる  
著/山崎美弥子  
出版社/赤々舎  
定価/4,180円  
小林由美子さん/美しい作品集。美しいものに触れると感性が磨かれる。

今すぐ実践! 12か月美肌ダイアリー  
監修/ポーラ  
出版社/小学館  
定価/994円  
池田美穂子さん/自分自身のケアの根本になる。

## Q4 なくなったら困るコスメは?

B.A ローション  
定価/22,000円  
花高重紀さん/まるで美容液。肌がかわり潤った艶ハリ肌へ。

B.A リキッドルージュセラム  
定価/各5,720円  
橋本彩音さん/他のリップでは荒れていた唇が荒れない。

B.A クレンジングクリーム  
定価/11,000円  
池田さん/美白、エイジングもできて肌の土台をつくってくれる。

B.A ライトセレクト  
定価/12,100円  
田中琴乃さん/「塗れば外に出られる」と自信がもてる。

熊野化粧品  
フィンガーフィット  
定価/4,070円~  
中岡さん/テクニクレスで誰でもプロのような仕上がりを目指せる化粧筆。

パーソナライズブランド「APEX」  
定価/9,900円~  
山村さん/一人ひとりの肌に合ったスキンケアを製作・お届け。

## Q5 学生に勧める今からすべき美への取り組みは?

日焼け止め 回答人数 9人  
●絶対塗って!(小林さん)  
●今それほど気になっていなくても今後シミになる可能性があるから、塗っておいたほうがいい。(室笠さん)  
●紫外線対策だけはちゃんとやっておいたほうがいい。(渡邊和子さん)

スキンケア 回答人数 7人  
●化粧水は手の温度で温めながら、擦ることなく優しく浸透させるように肌に入れる。(池田さん)  
●よく“流す”こと。洗顔やクレンジングは自分が思う3倍くらいはしっかり水で流す。(和田さん)  
●日頃のケアを若いうちからやっておくことが大切。(宗吉裕樹さん)

美に触れること 回答人数 5人  
●漫画やアニメ、映画などが美を見いだせるものに触れる際に、なぜそこに美を感じたか自分なりに言語化することが大事。(高橋 力さん)  
●メイクは日常の中でできる美の自己表現。自分をいっしょくみ、自己肯定感を高めてもらえたら。(中岡さん)  
●実際に美に「会いに行く」「触れる」「感じる」ことが大切。リアルでしか得られないものがあるから。(荻野さん)  
●好奇心、探求心を大事にし、いろいろな経験を試みる。(瀬田さん)  
●憧れの人ややりたい肌を見つけることがきれいのポイント。(山村さん)

運動すること 回答人数 2人  
●筋肉から美肌ホルモンがつくられている。シミ・シワ減少の手助けに。(花高さん)  
●運動すると気持ち的にもリフレッシュできる。(上村梨花さん)

健康管理 回答人数 2人  
●健康は美容の礎。どちらも積み重ねが大事。睡眠をとるスキンケアをして健康的な食事をするを心がける。(橋本さん)  
●生活すべてが繋がっている。心身ともに健康であることが一番いいと思っている。(元平さん)